

**平成 26 年度新宿区外部評価委員会第 2 部会
第 11 回会議要旨**

<開催日>

平成 26 年 9 月 5 日（金）

<場所>

本庁舎 6 階 第 2 委員会室

<出席者>

外部評価委員（4 名）

小菅部会長代理、金澤委員、小山委員、鱒沢委員

事務局（3 名）

中山行政管理課長、羽山主査、松本主任

<開会>

【部会長代理】

平成26年度第11回新宿区外部評価委員会第2部会を開会します。

今回は、部会長欠席のため、部会長代理による進行とします。よろしくお願いします。

議題は、前回に引き続き、今年度の計画事業の外部評価に係る部会の意見の取りまとめです。

取りまとめの方法等は前回と同様です。

初めに、計画事業35「高齢者の社会参加といきがいくりの拠点整備」です。

「適当でない」と付いた項目はありません。

まず、各委員からご意見をお願いします。

【委員】

シニア活動館と地域交流会の整備が計画どおり進められていることは適当と評価しました。また、ことぶき館から機能転換することによって、新たな層の区民が通い始め地域の活性化に結び付いていることは高く評価できます。

しかし、シニア活動館に関しては、ボランティアの活動拠点というものが具体的にイメージできません。ヒアリングでも質問したのですが、その答えが明解でなく、ふに落ちた感じがしませんでした。実際の活動内容も、ボランティアの育成や活動の活性化を狙っているのであれば、受け身過ぎる印象を受けます。より具体的な方策がみえても良いと思います。

【委員】

「地域交流館」「シニア活動感」という名称がなかなか浸透していない印象を受けます。目的に沿った活動が今後も地域で展開され、名称も浸透していくことに期待します。

それから、施設の老朽化の問題は非常に気になります。いまだにエレベーターの付いていな

い施設もあります。階段を上ることも大変な方がいますから、利用する人が限られてしまいます。危険な場所も出てくると思うので、老朽化への対応はお願いしたいです。

【委員】

エレベーターは必要ですね。

【委員】

はい。腰が曲がって歩くのが不自由な方や車椅子を使っている方でも来られるようにする必要があります。

【委員】

名称に関してはこれまでも議論してきているところであり、確かにまだ浸透されていない印象を受けます。また、施設の利用についても、同じメンバーが同じように使っているだけで、利用者の拡大や人材発掘が必要だと思います。前回の評価においても、区と指定管理者が連携し、更なる周知を図っていくといていたのですが、その部分があまり見えません。周知の方法や中身について、利用者アンケートの実施など一生懸命工夫していると思うのですが、受け身な印象は拭えません。待っていて人が来る時代ではないので、ボランティアの拠点としていくためには、まず地域や来ていない方への啓発が大事だと思います。

【部会長代理】

ありがとうございました。

私は、全体に適切と評価しました。

部会長からは「現在の事業が高齢の区民のニーズに合致しているのか（高齢者といっても多様化・多元化しており様ではない。この事業は高齢者をステレオタイプで捉えているように感じる。）」との意見が出されています。

では、補足、ご意見等をお願いします。

【委員】

確かに、型にはめているような印象を受けます。

【部会長代理】

実際には多様化していますから、意識的にそこを捉える必要がありますよね。

ほかにはいかがでしょう。

【委員】

「ボランティアの拠点」の捉え方は大きな疑問です。例えば、シニア活動館で地域の人たちが自発的に講座や勉強等の事業を展開することは、ボランティアの拠点としての機能なのでしょうか。

【委員】

捉え方次第ですね。

【委員】

そこが分からない。多様なプログラムを用意してボランティアを活用することなのか、地域住民が自発的に行うプログラムの場を提供することなのか。

【委員】

確かに、分かりにくいです。

【委員】

はい。自発的な活動を行う場の提供だけならば、現状でもできていると思います。しかし、ヒアリングなどで説明を受けると、ボランティア拠点の意味するところはそうではないように思います。

【委員】

曖昧ですよ。

【事務局】

新宿区立シニア活動館条例によれば、その設置目的は「シニア世代の者及び高齢者(以下「シニア世代の者等」という。)が行う社会貢献活動(営利を目的とせず、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的として、自発的に行われる地域における活動をいう。)その他の地域活動の拠点とするとともに、シニア世代の者等に係る健康及び福祉の増進を図るため、新宿区立シニア活動館を設置する。」とされています。社会貢献活動つまりボランティア活動は「自発的に行われる地域における活動」ですから、意味合いは、先ほど委員からあった「自発的な活動を行う場の提供」に近いものと考えられます。

【委員】

だとしたら、地域のシニア層がシニア活動館を使って地域貢献活動を展開しつつあり、その目的はかなり進んでいると思います。

【委員】

そうすると、評価できる意見になるのでしょうか。

【委員】

一方で、そういったことが内部評価から読み取れないのは問題だと思います。

そのような意見を出すことは可能でしょうか。

【事務局】

もちろん可能です。内部評価というのは区民の方が読んで、理解していただくのが前提なので、ボランティアの活動拠点とは何なのか読み取れないというのは、大事な指摘だと思います。

【委員】

本当に多彩なことをやっていますよね。

【部会長代理】

まだ過渡期だと思いますので、評価としては適当であるとしながら、更なる働き掛けを望むような意見を付しましょうか。

<異議なし>

エレベーターについてはどうしましょうか。

【委員】

設置しようがない施設もあるのでよね。

【事務局】

そうですね。例えば建て直して付けることは可能かもしれませんが、現在の施設にそのままエレベーターを付けるのは、建物の構造上、非常に困難な場合があります。

【委員】

ことぶき館のときから対象者が若者ではないのですから、その時点でなかったこと自体問題でしょう。

【事務局】

ご指摘のとおり、利用者の立場からいえばエレベーターがあってしかるべきなのでしょうが、実態として建物のスペースや構造上の問題があります。所管もやりたい気持ちは同じだと思います。

なお、同じような指摘は学校その他の区営施設でも受けているところです。

【委員】

高齢者が利用するので、その中でも優先順位の高い施設だと思います。

【委員】

一方で難しいのだということも理解できます。

【部会長代理】

難しい問題があることは理解した上でも、こういう要望があることだけは意見したほうが良いでしょう。

【委員】

建て替えが前提にはなってしまいますが。

【委員】

意見すべきだと思います。どんどん来てくださと言いながら、行きたくても行けない方がいるのですから。やはりできる限り早く対応してほしい。

【委員】

外階段の施設もありますよね。

【委員】

雨だと滑るし、荷物などを持って上がっていると非常に危ないと思います。

【委員】

事故でもあったら大変です。

【部会長代理】

では、この事業についてはそのような整理でよろしいでしょうか。

<異議なし>

次に、28「女性の健康支援」です。

「適当でない」と付いた項目はありません。

内部評価が「目的（目標水準）の達成度」を「達成度が低い」、「総合評価」を「計画以下」、「平成26年度に向けての改革方針【方向性】」を「事業拡大」としています。

まず、ご意見をお願いします。

【委員】

いろいろな手立てで努力されているのは伝わってくるのですが、なかなか成果が出ていないのが現状だと思います。検診などは個人の意識が高くなしないと成果は出ないので大変ですが、女性の健康支援センターができたことで、一層の充実が図られていくことが期待できます。

【委員】

この事業についてもなかなか課題が解決されていませんが、計画や事業の内容そのものは適当と評価しています。一方で、なかなか事業の実績が上がってこないこともあり、「計画以下」とした内部評価も適当だと思います。乳がん検診と子宮がん検診の受診率については、第一次実行計画から推移を追うと、1回は高くなったものの、現状ではそれ以前より低くなってしまっています。本当に厳しい現実をどのように捉えて、しっかり工夫してほしいと思います。

良い施設ができたので、あとはどうやって検診を受けてもらうかだと思います。7月25日号の「広報しんじゅく」の一面に、「がん検診を受けましょう」と大きく記載されていましたが、それを読んでも受診しようとは思いませんでした。私は受けていますが、現在受けていない人に受けてもらうためには、もう少し工夫する必要があると思います。皆が広報しんじゅくを読んでいるわけではありませんから、そのような人までみるならば、本当に工夫が必要です。

乳がんや子宮がんの死亡率が高い原因について、平成24年度区の総合判断で「検診未受診者の未受診理由を分析し、効果的な勧奨策を実施していきたい」とされていますが、それから1年以上たった現在でも都や国のデータができるのを待っているような状況であることには、非常にがっかりしました。新宿区として、都や国を待つ姿勢で良いのかと思います。

【部会長代理】

女性の健康支援については、受診率だけの問題ではないと思いますが、客観的な数値として評価できるのはそういう部分になるので、結果的にはいかにこれを高めるかということになると思います。

私の意見を申し上げますと、女性の健康支援センターができたことはとても良かったのですが、交通アクセスがあまり良くないのは残念です。もっと行きやすい、身近な施設にできないかと思います。それから、総合的な検診を受けられるようにするなど機能的にもう少し充実できないかと思います。

次の方、ご意見をお願いします。

【委員】

事業拡大は適当だと思いますが、内部評価をみてもヒアリングをしても、あまり熱が入っていないように思いました。いつも同じように冊子を作って、やっています、やっていますといっているようにしか聞こえません。もう少し現状を分析して、それに基づく対策が必要ではないでしょうか。

【委員】

女性の健康センターには今後大いに期待したいし、現在でも結構頑張っていると思います。

ヒアリングでも、他自治体の取組などを参考にしながら様々な手立てを講じていることが分かりました。にもかかわらず実績が上がっていないことはとても残念です。

何で受けないのかを徹底的に調べてみるというのは賛成です。乳がんはほとんどが遺伝性のものだという医師もいますが、そうでない方もいます。やはり、区としては全員がリスクを持っているという認識の下に対応する必要があると思います

【委員】

検査を受けることそのものを避ける傾向もあるのでは。

【委員】

あるのかもしれませんが。

【委員】

何となく行きたくない思いというのはすごく分かります。あと、単身の若い女性などは後回しにしがちだと思います。新宿区は単身の方がすごく多いわけですから、その影響もあるのではないのでしょうか。

【委員】

出前講座などで若い女性にアピールするのは良いかもしれません。

【部会長代理】

いずれにしても、受診率をいかに上げていくのか、アンケートや調査を行う必要はないか等は意見する必要があると思います。ただ、アンケートとはいってもどのようなことを聞けば良いのかは難しいですね。

【委員】

受診するような意識の高い人からしかアンケートが返ってこない可能性もあります。

【委員】

区民意識調査などを活用すれば回答はもらえそうです。

【委員】

区政モニターアンケートなどもありますね。

【部会長代理】

設備面ではどうでしょうか。総合的な検診ができればかなり人が来ると思います。

【委員】

確かに、総合的な検診ができる場所は、区内でも少ないですから、できれば良いですね。

【委員】

設備などをそろえるのは大変そうですが。

【事務局】

総合的な検診を受けられる施設ということであれば、ヒアリングで健康推進課長から説明のあったとおり、医師会立の区民健康センターができましたが、これに加えて女性の健康センターにもそのような機能が必要ということでしょうか。

【部会長代理】

そうですね。

例えばそこでも毎日全ての検査が受けられるわけではありませんよね。

【事務局】

はい。

それには総合病院並の設備が必要となります。それを区が整備して、女性の健康支援センターでやるのは困難だと思います。

【委員】

そうですね。

基本的に、一回で全て終えるということは無理ではないでしょうか。物理的に考えても、全身をチェックするためには、何回か行かなければいけないと思います。

【委員】

血液だけで全部分かってほしいですね。

【事務局】

医療の進歩でそれができるようになれば、そういったこともあり得るかもしれませんが、現状では、女性の健康センターを、来れば全ての健康診断やがん検診が受けられるようにすべきというのは、所管課の範囲を超えてしまい、外部評価としては厳しい指摘となってしまいます。

【委員】

そうありがたいとは思いますが、現実的ではないですね。

【委員】

結局、検診が嫌いな人は受けないでしょうし。

【委員】

好きな人なんていないでしょう。

【委員】

私はどちらかといえば好きですよ。ただ、嫌いな人をどのように受けさせるのかについては、もう少し工夫してほしいと思います。

【委員】

行かねばならぬでは上がらないと思います。魅力がなければ。

【委員】

受けてもなるときはなるとか現実を見たくないという心理もありますよね。

【委員】

あまり怖がらせても逆効果になるかもしれないということですね。

【委員】

そうです。

だから、行きたくなるような、魅力のあるものにしないとはいけません。

【部会長代理】

とりあえず、「達成度が低い」「計画以下」という内部評価は適当でしょう。

【委員】

それしかないですね。

【委員】

数字に表れていないのだからやむを得ないでしょう。ただ、何もしていないわけではなく、一生懸命努力していることは酌み取ってあげたいと思います。

【委員】

そうですね。単純に指標の達成度だけで全然やっていないと評価してしまうと、所管の一生懸命な頑張りがみえなくなってしまう。達成できていない指標は、いわゆるアウトカム指標で、区だけではどうにかできない要素があります。必要なのは、今後そこをどう上げていくのかです。つまり、どのように区民から理解を得るのかとか、来たがらない人を引き込んでいくのか等を検討していく必要があります。評価としてはアウトプット部分はしっかりやっていると認めた上で、どのようにアウトカムを上げていくのが課題であるといった形でまとめれば良いのではないのでしょうか。

【部会長代理】

そうですね。つまり、受診率を向上させるための工夫が今後必要であるということでしょう。部会長からは、「この事業のような、対象を限定した事業の実施に当たっては、当事者（この事業では女性）参加で進めることが必要だと思う。女性の側の声を聞くようなシステムを導入すべきではないか。」との意見が出されていますので、これも意見を付しましょう。

この事業については以上のような整理でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【委員】

来ない人を引き込むのは本当に難しいですね。

【部会長代理】

結局は面倒なのでしょう。

【委員】

忙しいというのもあるでしょう。検診を優先するわけにはいきませんから。

【委員】

利用者の声などを広報に載せると良いかもしれません。

【委員】

実際に行って発見することが多いですからね。

【委員】

はい。早期発見できて良かったという話は良く聞きます。

【委員】

そうですね。受けていなければ、もっと悲惨な状況になっていた可能性があります。

【委員】

そういうことなのだと思います。そのために受けてもらいたいのですから、その視点から意

識を啓発する必要があるでしょう。

【委員】

最悪の事態になってから気が付いて、もう手遅れということも十分あり得ます。ですから、ご本人の意思もありますが、そういった経験者の声をいかしてほしい。

【委員】

私たちも明日は我が身ですから、他人ごとではありません。

【委員】

そうですね。若い人だって、乳がんにかかる可能性はあります。他人ごとではないのだと感じ取ってもらうことが第一歩です。

【部会長代理】

若い人への働き掛けも継続してほしいと思いますね。

次に、24「図書館サービスの充実（区民に役立つ情報センター）」です。

「適当でない」と付いた項目はありません。

内部評価で、「目的（目標水準）の達成度」を「達成度が低い」と、「総合評価」を「計画以下」と、「平成26年度に向けての改革方針【方向性】」を「手段改善」としています。

私から意見を申しますと、レファレンスサービスについて、職員の能力向上を図るなど充実していて、方向性としては大変結構だと思います。多様化の時代の中で、図書館の機能として、レファレンスは大変重要です。是非継続してほしい。平成25年度は、中央図書館の移転に伴い実績が落ちたようですが、これが原因であるならば大きな問題ではないと思います。

電子図書の導入がまだ思うようにいっていないことは、現状では当然だと思いますが、時代に合った区民サービスを提供するため、今後も検討を続ける必要があるでしょう。

私からは以上です。

各委員からご意見をお願いします。

【委員】

レファレンスの件数について目標を達成できなかったことから「総合評価」を「計画以下」と評価することはやむを得ないと思います。

一方で、ビジネス情報支援相談会の実施により5件もの起業に結び付いていることは、新しい図書館活動のあり方として非常に高く評価できます。

【委員】

レファレンスという言葉になじみがなく、利用したこともありません。恐らく、図書館を利用している人で、レファレンスを利用している人は少ないのではないのでしょうか。

【委員】

調べものをするのにはすごく便利なのですが。

【委員】

利用者には本を借りに行くだけの方が多いのでは。

【委員】

そうですね。何気なく図書館へ行って本を選んで帰る人たちにとっては、それほど役に立つ機能ではありません。

【委員】

まず、レファレンスという言葉聞き慣れないです。

【委員】

そうですね。

【委員】

それに、図書館はしゃべってはいけない気がして、相談するのも気が引けてしまいます。

【委員】

レファレンス以外にも、いろいろなサービスを行っているのはヒアリングなどで理解したのですが、あまり活用できていない印象です。

【委員】

いろいろな活動は行っているのですから、あとは利用してもらうことですよね。25年度は中央図書館の移転が影響したようですから、今年度は実績が上がるでしょう。

【部会長代理】

期待しましょう。

では次の方をお願いします。

【委員】

まず、外部評価とは直接関係ありませんが、中央図書館長のヒアリングの説明に大変好感を持ち、非常に勉強になりました。ヒアリングの説明というのは外部評価にとって非常に重要です。どんなに素晴らしいことをやっても、理解できなければ伝わりませんので、分かりやすく説明することが一番良いわけです。

事業内容については、ビジネス情報支援相談会の実施により起業に結び付いていること、正確な情報が得られるレファレンスサービスを展開していること、国立国会図書館等との連携など様々な取組を行っていることは高く評価できます。インターネットが普及していますが、必ずしも正確な情報だけではありませんから、正確な情報を得られるのは大変重要です。

実績が下がったことについては、ほかの委員と同様、中央図書館の移転が原因なのであれば問題ないと思います。

応援していきたい事業です。

【部会長代理】

ありがとうございました。

全体に方向性は同じだと思いますので、中央図書館の移転という特殊事情はあったものの、実績が目標に達していない以上「計画以下」は適当であること、一方で、様々な取組を行っていることやその内容等は評価できるものであり、今後も期待することを意見しましょう。

一点気になるのは新中央図書館の建設についてです。この事業で直接行うものではないのですが、現状はなかなか進んでいないようなので期待する旨意見したいのですがいかがでしょう。

【委員】

なかなかみえて来ないですね。

【部会長代理】

全く見えていないのが現状です。

【委員】

ずっと先、いずれはの話になっているように思います。

【部会長代理】

主な理由は何なのでしょう。

【委員】

東日本大震災の影響で計画が見直されることになったとのこと。

【委員】

財政的なものなのでしょう。

【委員】

ヒアリングでは「放課後を思わせる自由な時間と空間」と「懐かしい未来」をキーワードに、旧中学校の校舎の空間構成や風情をいかした形で整備していくとの説明がありましたが、それが中央図書館にふさわしいのかは疑問が残ります。

【部会長代理】

「区民に役立つ情報センター」という事業名に照らして、中央図書館が現状のままで良いのかという視点も必要ではないでしょうか。内部評価にそれがみえないことは残念です。中央図書館の建設については、外部評価委員会が評価すべきことではありませんが、やはり早期に新中央図書館の建設を望む声はあるわけですし、サービス面で本当に問題ないのか等を検証する必要はあると思います。

【委員】

やはり、あの図書館そのものが仮住まいですね。

【委員】

早稲田大学との連携などもあるようですから、いろいろと検討してほしいと思います。

【委員】

入りやすい雰囲気づくりなども大事ですね。

【委員】

そうですね。

館によっていろいろと違いますが、以前と比べるとホームレスの方が少なくなっただけで入りやすい雰囲気はできていると思います。

【委員】

高齢者等の居場所にもなっているように思います。

【委員】

確かに、新聞や本を読んでいる方を良く見ます。

【委員】

シニア活動館より行きやすいのかもしれませんが。

【委員】

シニアとか高齢者と言われることに抵抗感のある方も多いでしょうから。

【委員】

図書館には、教養、文化、調査等知の拠点とは違う側面もあるということなのでしょう。だからこそ、やはりしっかりとした中央図書館を作ってほしいと思います。

【委員】

全部関わっているのですね。

【委員】

シニア活動館と連携すれば、ボランティア活動も活発になるかもしれません。

【委員】

事業と事業が連携し、工夫することで双方がもっと活性化できる。大切な視点ですね。

【委員】

是非、新しい図書館像を作ってほしい。

【委員】

やはり第2部会として意見はすべきだと思います。

事務局はいかがでしょう。

【事務局】

部会長代理のご発言にもあったとおり、この事業で直接中央図書館を建設するわけではありませんから、評価としてご意見いただくことは難しいのですが、「その他意見」として、新中央図書館建設の早期実現を期待しているようなことを意見していただく程度ならば問題ないと思います。

【部会長代理】

いかがでしょう。

<異議なし>

レファレンスという言葉になじみがないという意見についてはどうでしょう。

【委員】

実績が上がらない一つの要因ではあると思います。図書館では本を借りる以外にも、レファレンスもできますよといわれてもピンと来ないでしょう。

【委員】

ピンと来なかったということを率直に意見しても良いと思います。

【委員】

そうですね。それが良いでしょう。

【委員】

区民に分かるよう周知、啓発してほしい。

【委員】

そもそも「レファレンス」という言葉が良くないですね。

【部会長代理】

何なのか分かりませんからね。

【委員】

そういう機能もあることを知れば、図書館をもっと使おうよという人が出てくる可能性もあります。

【委員】

調べもの相談に応じますよといった、分かりやすい伝え方を考えてほしい。

【委員】

日本語にしたほうが良いでしょう。

【部会長代理】

では、この件についても意見しましょう。

<異議なし>

この事業についてはよろしいでしょうか。

次に、25「子ども読書活動の推進」です。

「適当でない」と付いた項目はありません。

私から意見しますと、平成13年に子どもの読書活動の推進に関する法律が施行され、国の策定した子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画や各自治体の策定した推進計画を前提にして、子どもの読書を進めるための環境が整備されています。新宿区でも計画事業として五つの目標を設定していて、それぞれ達成度はかなり高くなっています。

「サービスの負担と担い手」についてですが、いわゆる基礎学力を身に付けさせるのか、学習課題にどのように取り組んでいくのかといった、学校現場の最先端の課題を達成するためには、調べ学習の実施は非常に重要だと思います。

新宿区は、23区の中でも特に子どもの読書活動に教育重点を置いていると思います。これは素晴らしいことです。家庭や地域だけでは、なかなか読書活動まで手が届きません。逆にいうと学校に頼らざるを得ませんから、現在の取組は高く評価できます。また、指標も各種計画に基づき具体的な設定がされていて評価できます。

子どもと本の出会いづくりというのは、教育現場の大きな課題です。できれば、小学生のときに良い読書との出会いをさせたい。そういう点から、各学校に司書を配置するなど出会いの場を整備していることはとても良いと思います。

次の問題は、学校での各種活動のフォローを各家庭でやっているかです。学校教育の中ではこれが限界でしょう。区がこれだけの取組を行って、着実な成果を出しているのですから、家庭がそれをしっかりとフォローしてほしいと思います。

以上です。

ほかの委員からもご意見をお願いします。

【委員】

16「学校図書館の充実」とも関わりのある事業ですね。成果が出ていると評価します。

「確かな学力」を身に付けるためには、文章を読み取る力が必要です。つまり、全ての基本は国語ですから、不読者率を下げようという取組は大変大事だと思います。子どもたちが本を読む力を身に付けるため、本を読んだり読んでもらったりする楽しさを感じ取るためには、保護者への働き掛けが重要なので、その視点からの取組にも期待します。

【委員】

重層的な計画から展開していることが分かりました。特に、団体貸出しについては、子どもたちが手に取りやすい環境が作られていることが実績からも分かり高く評価します。パソコンやタブレット型端末などの普及により、書籍と触れ合う場の確保は今後ますます大きな課題になっていきますから、継続した活動に期待します。

【委員】

将来の新宿区を作る人材の育成にとって重要な事業だと評価します。

実績も上がっていて、総合的に評価できます。ただし、小学生の不読者率が目標に達しなかったことについては、更なる取組が必要です。

【部会長代理】

ありがとうございました。

全体に方向性は一致していますから、そのとおりまとめましょう。

<異議なし>

小さいころの読み聞かせは重要ですね。特に、男性による読み聞かせは、女性のそれと比べて感情が込めにくいですから、逆に子どもにとっては想像力を養うのに効果があると思います。

【委員】

小学生にもなると、あまり読み聞かせというのはしなくなりますね。

【部会長代理】

そうですね。

ただ、実際には小学生にも効果はあると思います。

紙芝居などは小学校でもありますよね。あれも、めくり方や行間の工夫で子どもの知的な思考力を刺激し、想像力や発想力を養うことができます。

読書や紙芝居とテレビの一番の違いは全部が見えないことです。全てが映像で流れるテレビでは、子どもが想像する余地がない。字を読んだり聞いたりして、その光景を思い描くからこそ、刺激を受けるのだと思います。

では、本事業については以上とします。

次に、33「ホームレスの自立支援の推進」です。

ご意見をお願いします。

【委員】

新宿区にとって、ホームレスへの対応は大きな問題です。困難な課題が多い中で実績を生み出していることは評価できます。ただ、平成27年度に生活困窮者自立支援法が施行されるのに、方向性は「継続」で良いのかというところは疑問です。

【部会長代理】

ホームレス対策にとって、最も重要な手段は自立支援だと思います。そういう視点から、区の出組は適切だと思います。ホームレス一人一人の人権、適性を尊重し、取り組んでほしいと思います。

以前、ホームレスの方に直接話を聞く機会がありました。そのとき、なぜそのような生活をするのでしょうかと率直に聞いたところ、最も大きな理由として多く挙がったのは、人との関わり合いが苦手だということでした。特に、会社の組織の中にはいられないという方が多かったです。中には学歴もあるし、以前は社会的な地位を持っていた方もいました。しかし、いわゆる中間管理職になって、適応ができなくなり飛び出してしまったようです。

自分自身でも苦勞して、区や都の支援を受けながら改善を目指したのだけれど、例えば施設に入所したけれどもどうも息苦しくてなじめず、一人で寝袋の中で公園で寝ることが自分に一番合っていると出てきてしまったような方も多くいました。ある人は、最終的に一番の幸せは黙って放置してもらうこととのことでした。

なので、単に貧困の問題だけでなく、一人一人の人権や適正を踏まえたカウンセリングや話し合いが、現代のホームレスには求められていると思います。支援活動とは何なのかを、一面的に外見だけで判断するのではなく、内面的な理解や共感が必要ではないでしょうか。また、理解というのはこちらが理解するだけでなく、向こうにこちらの考えや思いを理解してもらう必要もあると思います。

NPOのスープの会・地域生活支援ホームなどはそういう方向性で活動していますね。

【委員】

気持ちに寄り添う。

【部会長代理】

そうです。

では、次の方、ご意見をお願いします。

【委員】

ホームレス生活をしている方にとって、「自立」というのは何なのか、考え方はいろいろあると思いますが、自分で生活の手段を確保する、つまり働くことが最終的な自立の形だと思います。そこまで至っている方は多くないと思いますが、ホームレスの数が減っていることについては、区が努力した結果と高く評価します。かつては区内の多くの公園でいわゆるブルーテントを多く見たものですが、現在ではかなり少なくなっています。

一方で、路上生活に至る原因というのは、コミュニケーション能力、人格・人間性、病気、貧困など様々です。個別の抱えている課題に沿って、一人一人に対応していくことが、とても難しいのですが必要です。

それから、ホームレス生活から脱出した方には、地域になじめない方もいると思いますので、元に戻らないよう、継続した支援が必要だと思います。

【委員】

確かに、ホームレスの減少というのは肌で感じるところです。ホームレスの発生状況は、社会情勢に大きな影響を受けます。今後また増える時期もあると思いますので、継続した地道な活動が必要です。先ほどのご意見のとおり望んでホームレス生活をしている人もいますので、最終的には自立していける道があると良いと思います。

それから、ホームレス数の確認が目視で行われているというのは驚きました。

【部会長代理】

ありがとうございました。

行政も大変な努力をされていて、成果も出ていると思いますので、高く評価し、今後も継続してほしいといった形にまとめましょう。

<異議なし>

次に、32「障害者の福祉サービス基盤整備」です。

「適当でない」と付いた項目はありません。

この事業で、弁天町に施設を整備していますね。日々建設が進んでいるのを見ています。良いところですよ。

【委員】

あの場所は、手付かずでずっと空いていたので良かったです。

【部会長代理】

そうですね。区はよく決断してくれたと思います。

障害者にとっても良い場所です。

【委員】

地域もバックアップしているということでした。

【部会長代理】

そうですね。入居施設ということもあり、反対する人もいたのですが、目立った反対がなかったのは驚きでした。

【委員】

それだけ区民の意識も変わってきているということなのでしょう。

【部会長代理】

では、まずご意見をお願いします。

【委員】

計画どおり実行されていることは評価します。とはいえ、いまだに障害者は弱い立場に置かれることが多く、本人やその家族の苦労は推して知るところです。今後も、区の対応に期待します。

【委員】

地域との関係が良好に進んでいることは高く評価できます。出来上がった後も、地域との良い関係を築いていけることに期待します。

【委員】

地域が知的障害への理解や認識を深めたからこそ反対がなかったのだし、そうなるためには大変な頑張りがあったのだと思います。障害者によらず様々な差別がありますが、差別に至る原因には知識のなさも大きく影響していますから、そこを上手に広めていくことがとても大切です。この施設ができてはまだ需要はあるようですから、更なる取組に期待します。

【部会長代理】

今後、障害者本人や保護者の高齢化は大きな問題になります。そういう点では入所施設への需要は増しますから、この事業は、障害者にとって本当に恵みの事業だと思います。

次は、良い団体に指定管理者になっていただき、しっかりと運営してもらうことが大切です。外部評価委員会としても、今回は高く評価しながら、今後の推移に注目しなければいけません。

高田馬場の施設についてはいかがでしょう。

【委員】

これは完成はまだ先ですね。

【部会長代理】

そうですね。

【委員】

工事は計画どおり順調に進んでいるようですから、問題はないと思います。

グループホームも随分増えましたよね。

【部会長代理】

この事業についてはよろしいですか。

<異議なし>

次に、36「障害者就労支援の充実」です。

ご意見をお願いします。

【委員】

新しい施設が出来て、計画どおりに進んでいることは評価します。

【委員】

移転に際して、住民への説明を丁寧に行ったことや、利用者に対する通退所の練習などを重ねていたことなどにより、大きな混乱が起こらなかったことは高く評価できます。

ヒアリングで、利用者の障害の重度化や高齢化への対応とか、作業所で作る商品の企画が大きな課題となっているとの説明がありました。周辺に迷惑を掛けず、簡単で、ロボットや外国製などの低コストで大量生産できる商品に負けないものとなるとかなり難しいと思いますが、頑張してほしいです。

【部会長代理】

ありがとうございました。

私の意見ですが、高田馬場への移転に伴い、定員を増やして障害者の就労の場を広げたり、接客関係のサービスができる場を整えたりしたことは、働きたい障害者にとってかなり明るいニュースだと思います。区の一つの英断として高く評価できます。

障害者の就労の場を広げることは、自立へ向けて大変有力な手段になりますが、それには区と区民の支援・応援が必要です。支援・応援することの第一歩は、理解することです。そのことを念頭に置いて、今後の推移を見守ることが大切でしょう。

類似した取組も区内で随分行われていますよね。

この事業も含めて、区の方針性は適切だと思います。

この事業についてはよろしいでしょうか。

<異議なし>

では、取りまとめは以上となります。

今回をもって今年度の部会は最後となりますので、各委員から簡単に感想等をよろしいでしょうか。

【委員】

今回も勉強になりました。

いまだに内部評価を評価するという視点が抜けてしまうことが多いので、その辺は反省が必要です。来年もよろしくお願いします。

【委員】

ありがとうございました。

とても勉強になりました。内部評価シートから読み取ることについては、熟知されてきたと思います。来年度も第2部会の一員として、楽しく頑張りたいと思います。

【委員】

3年目にして、ようやく内部評価を評価するということが理解できたように思います。ただ、ヒアリングで何を質問しようかというのは常に課題で、実際には分からないから聞く部分もありながら、外部評価をするのですから、事業を理解してから聞く姿勢というのも絶対に必要だと思います。ですから、すごく緊張感もありましたし、調べていかなければいけないという思いもあって、ヒアリングが非常に大きな部分を占めている印象です。

皆さんの発言から新たな視点に気付くなど、まだまだ学びが多かったなと思います。

ありがとうございました。

【部会長代理】

ありがとうございました。

事務局はいかがでしょう。

【事務局】

2部会については今回で部会としての取りまとめが終了ということで、非常にスムーズにいったと思います。各委員から、勉強になるというお話がありましたが、我々事務局側にとっても非常に勉強になっています。行政サイドからでは、実際に地域で活動されている目線や区民

として生活者の目線でみることはなかなかできません。皆様からいろいろなお話を聞かせていただくことは、自分としても勉強になります。私としても感謝しています。ありがとうございました。

【部会長代理】

ありがとうございました。

では、以上で閉会とします。

お疲れさまでした。

<閉会>